

# わたしの聖王ジハード

◎◎女性が働くということ◎◎ 87

医学ジャーナリスト・医学博士 植田美津恵

## 人生相談を読む

新聞の人生相談の欄が好きで、よく目を通す。

少々ワイドショーに似た興味本位的な面があつて、どちらかといえば男性より女性に好まれるのではないかと思つてゐる。

その内容もさることながら、回答者の答えにこそ感心することも多い。

回答者に与えられた質問も、新聞紙上に紹介されている以上のものはないようだが、短い文字数に込められた相談者の気持ちを汲み取り、さらにこれをまた小さな紙面での確かな回答を導き出すのはひとつの技だと思ふ。さすがに選ばれた人たちだけあつて、大変に的を射た内容に目からうろこが落ち

たり、言葉なく感嘆したり、実に面白い。

先日の相談内容は、とても興味をそそられるものであつた。

50歳を過ぎた女性からであつたが、長年連れ添つた夫に女装趣味のあることがわかつて悩んでゐるといふ。最初部屋から下着を見つけたときは、

つきり浮気でもしてゐるのかと思つたらしいが、事實は夫がときどき身につけていたというところ

にあり、しかも子どもたちは薄々感づいていたのだとか。相談者は、もう

気が悪くて仕方がないという悲痛な気持ちを訴えていた。

ほかにこれといつて欠点がないのなら、夫の趣味に目をつぶつてはどうかというものだった。そのとおり、それはまさしく誰に迷惑をかけてゐるわけでもない本人の性向のひとつなのだから、大目

だと思ふ。ただ、どういふわけか、おそらく本人にもわからない衝動があり、それが女性の下着や服装に興味を持ち、見るだけではなく實際着ることが快感であり、どうしても「やめられない」のだろう。

こういう方

は、少なからず存在するのではないかと思つてゐる。

世の中には、びっくりするようないふつとはかり知れない行動や癖や習慣を持つてゐる人はゴマンといふ。本来人間とは

そういうものであるが、それを前面に出す人と出さない人がいたり、隠す人とそうでない人がいたり、いづれにしろ自分だけの「秘密」があるから

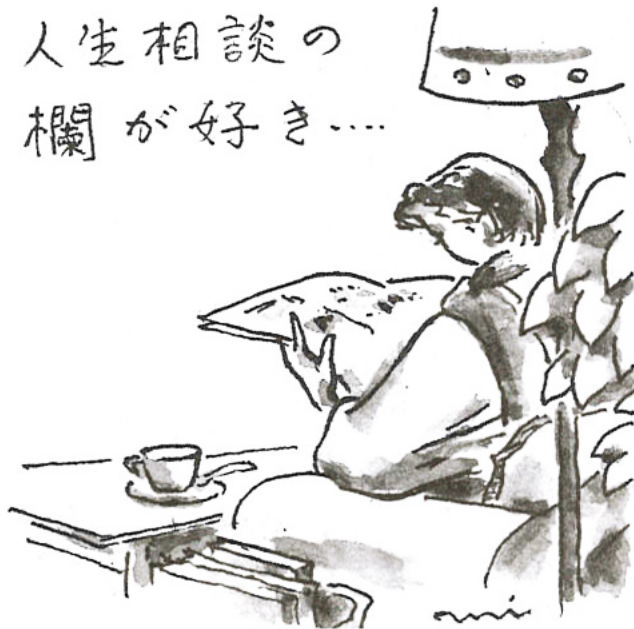
こその世知辛い社会を生きていけるのかもしれない。そしてその「秘密」

というのはたいていが後ろめたいものなのである。それは気持ちが悪いですが、すぐに別れましょう、と答える人もあるかもしれないが、誰もが持つパンドラの箱を認めた上でそれを許すことを促すほうが、私にとっては嬉しく納得させられる。

新聞の人生相談は一方通行で、回答に対する質問者の感想は掲載されていない。したがつて、回答に対して不満があつたり物足らなかつたりしてもそういった反応はわからないままだ。それは回答者にとつてもジレンマだと思ふが、諸々の消化不良がありながら、それでも相談を投げかけ、それに真剣に応えようとするライブなやりとりから目が離せない。他人の人生を垣間見る――、これもまた私の、あまり公言できないささやかな楽しみなのかもしれない。

イラスト・三浦義男

## 人生相談の欄が好き……



がどうしても嫌なら、別れるのを前提で話し合いを進めてはどうでしょう、という内容だつたと思う。私も全く同感である。長い間気がつかず、子どももいるのだから、その夫という人は外見上・日常生活上は全く普通なの